

作成日: 2010年9月28日

改訂日(V.3): 2013年2月4日

製品安全データシート

1. 化学物質等(製品)及び会社情報

製品名: ポリレート109

会社名: 日本農薬株式会社

住所: 〒104-8386 東京都中央区京橋 1丁目19番8号 京橋OMビル

担当部門: 環境安全部

TEL. 03-6361-1426, FAX. 03-6361-1451

e-mail: kankyuanzen@nichino.co.jp

緊急連絡電話番号:(平日) 03-6361-1426(環境安全部)

(休日、夜間) 04-2929-8961(ALSOK)

用途及び使用上の制限: 冷温水システムの防錆

MSDS番号: 530-37(M10-15)

2. 危険有害性の要約

重要な危険有害性 酸と接触すると有害な亜硝酸ガス(NO NO_2)を発生するので注意する。

特有の危険有害性 特記する危険有害性は知られていない。

GHS分類区分

急性毒性(経口) : 区分4

急性毒性(吸入: 粉塵、ミスト) : 区分2

呼吸器感作性 : 区分1

皮膚感作性 : 区分1

生殖毒性 : 区分1B

特定標的臓器毒性(反復暴露) : 区分2(肝臓、腎臓、神経系、精巣、泌尿系、造血系)

水生環境有害性(急性) : 区分2

水生環境有害性(慢性) : 区分2

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類できない。

GHSラベル要素



絵表示

注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

吸入すると生命に危険

吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

長期にわたる反復暴露により臓器（肝臓、腎臓、神経系、精巣、泌尿系、造血系）の障害のおそれ
水生生物に毒性

長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

（安全対策）

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取り扱い後は手を良く洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
呼吸用保護具を着用すること。

（応急措置）

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。
特殊な治療が緊急に必要である。（詳細は第4項応急処置を参照のこと。）
暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
特殊な処置が必要である。（詳細は第4項応急処置を参照のこと。）
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

（保管）

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

（廃棄）

内容物/容器を廃棄する際は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

有効成分化学名（一般名）：亜硝酸ソーダその他（非公開）

成分及び含有量

成 分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
亜硝酸ソーダ	非公開	7632-00-0	既存物質	(1)-483
その他防錆剤	非公開	非公開	非公開	非公開

〈その他〉					
	消泡剤	微量	非公開	非公開	非公開
	水	75～80%	—	—	—
4. 応急措置					
吸入した場合		・ 吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 ・ 直ちに医師の診断を受けること。 ・ 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。 ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。 ・ 呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。 ・ 呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。 ・ 呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。 ・ 意識のない被災者には何も飲ませてはならない。 ・ 吸入の影響が遅れて現れることがある。 ・ 上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。			
皮膚に付着した場合		・ 直ちに水で洗い流し、石鹸で液が付着したところをよく洗うこと。 ・ 直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。 ・ 皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。 ・ 気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。 ・ 汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。			
眼に入った場合		・ 清浄な水で最低 15 分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。 ・ コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。 ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。 ・ 激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受ける事。			
飲み込んだ場合		・ 直ちに水で口の中を洗浄する。 ・ 直ちに医師の診断を受けること。 ・ 無理に吐かせないこと。 ・ 子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。 ・ 水で口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯の水又は牛乳を飲ませ、直ちに医師の処置を受ける。 ・ 被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。 ・ 必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。			
予想される急性症状及び遅発性症状		・ 特になし			
最も重要な徴候及び症状		・ 特になし			
応急措置をする者の保護		・ 特になし			
医師に対する特別注意事項		・ 特になし			
5. 火災時の措置					
消火剤		・ この製品自体は、燃焼しない。			
特有の危険有害性		・ 当該製品は[分子中に N, P]を含有しているため火災時に刺激性もしくは有			

特有の消火方法	毒なヒューム(またはガス)を放出する。 ・ 燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。 ・ 消火作業は、可能な限り風上から行なう。 ・ 関係者以外は安全な場所に退去させる。 ・ 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 ・ 周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。 ・ 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火を行う者の保護	・ 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。 ・ 消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- ・ 作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・ 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

回収、中和

- ・ 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。

- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止策

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	・使用前に取扱説明書を入手すること。 ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。 ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。 ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。 ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。 ・取り扱い後はよく手を洗うこと。 ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 ・容器はその都度、密栓する。
注意事項	
保管	
適切な保管条件	・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。 ・容器を密栓すること。 ・直射日光を避け、密栓をして冷暗所に保管すること。 ・施錠して保管すること。 ・酸と一緒に保管してはならない。
安全な容器包装材料	・容器は入れ替えず、出荷時使用されていた容器で保管する。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。 ・取扱い場所の近くに手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度	・設定なし
許容濃度	・日本産業衛生学会(2006 年度版)：設定なし ・ACGIH(2006 年度版)：設定なし
保護具	
呼吸器の保護具	・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。
手の保護具	・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。
眼の保護具	・必要に応じて保護衣、保護前掛け等を着用する。 ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	・安全靴を使用する。
適切な衛生対策	・保護具等は定期的に点検を行う。
9. 物理的及び化学的性質	
外観	: 淡黄色透明液体
臭い	: かすかな臭
pH	: 8.9 (原液) 8.3 (5%水溶液)
融点・凝固点	: -5.5℃
沸点、初留点と沸騰範囲	: 103℃
引火点	: なし
燃焼性	: データなし

燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重 (相対密度)	: 1.10 (g/cm ³ , 20/4°C)
溶解性	: 水と任意の割合で混和する。
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
自然発火温度 (発火点)	: データなし
分解温度	: データなし
その他のデータ	: 特に有用な情報無し

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性	・酸と接触すると亜硝酸ガス (NO NO ₂) を発生する。
危険有害反応性の可能性	・酸と接触すると亜硝酸ガス (NO NO ₂) を発生する。
避けるべき条件	・酸と接触。
混触危険性物質	・酸。
危険有害な分解生成物	・亜硝酸ガス (NO NO ₂)。
その他	・特になし

11. 有害性情報

製品全体としての有害性情報

J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9 に基づき混合物分類計算を行って得られた結果を表示する。

急性毒性 (経口) : 本製品は区分3、区分4物質を少量含有するため、実験で得られた急性毒性範囲推定値 (又は急性毒性区分) から各暴露経路に関する分類のための急性毒性点推定値への変換を用い、混合物の毒性を計算したところATE_{mix}=1,310であったため、区分4と判定した。

急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト)

: 本製品は区分1物質を少量含有するため、実験で得られた急性毒性範囲推定値 (又は急性毒性区分) から各暴露経路に関する分類のための急性毒性点推定値への変換を用い、混合物の毒性を計算したところATE_{mix}=0.09であったため、区分2と判定した。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 本製品は皮膚刺激性区分2を1%程度含有する。混合物を分類するための成分濃度 (皮膚腐食性又は刺激性) に従い混合物判定を行ったところ、区分1および区分2共に最小値を下回り、区分不明の成分を1.2%含有する為「分類できない」と判定した。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

: 本製品は眼刺激性区分2を8%程度含有する。混合物を分類するための成分濃度 (眼に対する重篤な損傷性及び眼刺激性) に従い混合物判定を行った結果、区分1および区分2共に最小値を下回り、区分不明の成分を1.2%含有する為「分類できない」と判定した。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

: 本製品を皮膚感作性物質又は呼吸器感作性物質として分類する混合物成分の限界濃度に従い、混合物の判定を行ったところ、呼吸器感作性および皮膚感作性共に区分1に分類される安息香酸塩を1%以上含有することから呼吸

- 器感作性区分1および皮膚感作性区分1と判定した。
- 生殖細胞変異性 : 分類できない。
- 発がん性 : 分類できない。
- 生殖毒性 : 本製品を生殖毒性物質として分類する混合物成分の濃度限界に従い混合物判定を行ったところ、区分1Bを0.3%以上含有するので区分1Bと判定した。
- 特定標的臓器毒性（単回暴露） : 本製品を特定標的臓器毒性物質として分類する混合物成分の区分2の濃度限界に従い、混合物の判定を行ったところ区分2が10%を下回下回り、区分不明の成分を6.4%含有する為「分類できない」と判定した。
- 特定標的臓器毒性（反復暴露） : 本製品を特定標的臓器毒性物質として分類する混合物成分の濃度限界に従い、混合物判定を行ったところ区分1が1.0%を上回り、10%未満なので区分2（肝臓、腎臓、神経系、精巣、泌尿系、造血系）と判定した。
- 吸引性呼吸器有害性 : 本製品は、分類できないものだけなので「分類できない」と判定した。

組成物質に関するその他の有害性情報

亜硝酸ソーダ

急性毒性

LD50（経口）	ヒト	71mg/kg
LD50（経口）	ラット	85mg/kg
LD50（経口）	マウス	175mg/kg
LD50（吸入）	ラット	5500 µg/kg

眼に対する重篤な損傷/刺激性

: 区分2 強い眼刺激。

特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）

: 区分2（血液、心血管系）

区分3（気道刺激性）

特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）

: 区分2（血液系）

12. 環境影響情報

製品全体としての有害性情報

J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9 に基づき混合物分類計算を行って得られた結果を表示する。

水生環境有害性

急性

: 本製品は、区分1に分類される物質を含有するので、成分の加算による混合物の急性有害性分類に従い分類したところ、急性区分2に該当する成分が62.6となった為、急性区分2と判定した。

慢性

: 本製品は、区分1に分類される物質を含有するので、成分の加算による混合物の慢性有害性分類に従い分類したところ、慢性区分2に該当する成分が61.2となった為、慢性区分2と判定した。

亜硝酸ソーダ

水生環境有害性

LC50 (96H)	ミジンコ	215mg/L
LC50 (96H)	キンギョ	360~565mg/L
LC50 (96H)	ニジマスの幼魚	0.20~0.40mg/L

13. 廃棄上の注意

- ・液交換時の廃液、内容物/容器の廃棄の際は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに業務委託して処理をすること。
- ・容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さないこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

- | | |
|------|-------|
| 国連分類 | ・ 非該当 |
| 国連番号 | ・ 非該当 |

国内規制

- | | |
|------|-------------------|
| 積載方法 | ・ 運搬時の積み重ね高さは3m以下 |
| 混載禁止 | ・ 酸類 |
| | ・ 高圧ガス |

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷崩れ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水濡れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時には、熱い鉄板、地面等の上に直接おかないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、丁寧に扱う。転倒したり、激突させたりしない。
- ・ 航空輸送は、航空法の定めるところに従うこと。

15. 適用法令

火薬類取締法 : 対象外

高圧ガス保安法 : 対象外

消防法 : 非該当

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)

: 非該当 (但し、該当する亜硝酸塩を含有する。)

労働安全衛生法 : 表示対象物質及び通知対象物質を含有しない。

労働安全衛生法 (有機溶剤中毒予防規則)

: 非該当 (該当成分を含有しない)

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法 (PRTR 法)

: 非該当 (該当成分を含有しない)

16. その他の情報

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。